

横浜市民防災センター再整備について

横浜市民防災センターの概要

1 開設年	昭和58年4月竣工
2 前回の再整備	平成7年展示室の全面改修(現在まで18年経過)
3 来館者数	平成24年度は約4万2千人(開設からの累計約130万人)
4 今回の再整備範囲	展示室、訓練室、研修室及びこれらに付随する設備を予定 (沢渡中央公園の再整備については、神奈川区及び環境創造局と連携)

基本方針

- 「自分が生き残る」「周りの大切な人たちの命を守る」ための行動を身につけられる
よこはま地震防災市民憲章を周知し、自分と家族を守り、地域で助け合っていくために必要な行動について学び、知識だけではなく、具体的な行動を体験、習得できる機会を設ける。
- 横浜市の特性について理解を促す
横浜市で起こりうる災害被害の様子、特性を正確に伝え、災害は自分の身にも起きるという意識を高める。自分でとらなければならない行動、備えておくべきこと(減災行動)について理解を深める。
- 幅広い世代、ニーズに対応した実践的なプログラムを提供する
来館者の年齢、属性、ニーズに合わせた具体的で実践的な体験プログラムを提供する。

特長

- ・いつでも誰でも防災・減災を学ぶことができる。
- ・他では体験できないリアルさで、防災・減災の行動を気づき・考えてもらうことができる。
- ・横浜駅に近く、公園と一体で市民が利用できる施設であり、平常時だけでなく、災害時も有効に活用できる機能を有している。

効果

- 横浜市民
 - ・地域特性や被害予測を知り、災害への備えを実行している。
 - ・災害時に自分の命を守ることができる。
- 子ども
 - ・知識を身につけることにより、将来の横浜の安心を担う力が育っている。
 - ・災害に対する不安を素直に表現し、大人に行動を促している。

自助・共助の取り組みによる市民及び地域防災力の向上
減災目標の実現

施設展開案

～再整備コンセプト～

「自分の命を守る」**自助意識**
「お互いに助け合う」**共助意識**の啓発と
その**行動を起こす**ことができる人を育成する場

自助エリア

自助行動を中心に、減災行動への第一歩を体験

すべての来館者

共助(屋内)エリア

自助体験を振り返るとともに、共助行動について学ぶ

団体

共助(屋外)エリア

実際の災害時にるべき行動を実体験し、確実に身に着ける

ニーズにあわせて

専門エリア

より専門的な知識や情報を取り得し、減災知識、行動力を高めていく

ニーズにあわせて

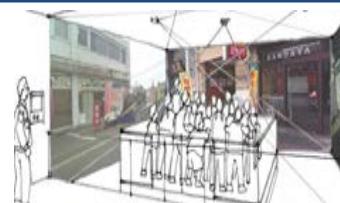
【例】

実大避難所運営ゲーム(HUG)など



【例】

横浜に起こりうる災害を想像・体験など



訓練室

共助(屋内)エリア

展示室

自助エリア

沢渡中央公園

共助(屋外)エリア

研修室

専門エリア

【例】

地域防災拠点の資機材取扱いなど



【例】

災害図上訓練(DIG)など



運営面の工夫

■ハードのみならずソフトを充実

- ・来館者のニーズに合わせた複数のプログラムを用意
- ・習得度に応じ職員が適切にアドバイス
- ・セミナーなど年間を通して開催

■NPO法人、企業など民間活力との連携

- ・質の高い知識・技術やサービスの提供
- ・最新の防災用品等の紹介や普及等